



九条の会

九条の会奈良県ネットワーク運営委員会
発行責任者 佐川愛子
✉ nara9jyonokai@gmail.com
☎ 090-9885-9756
<http://blog.goo.ne.jp/9naranel>
<http://www.nara9jyonet.com>
20号 2018年6月5日発行



奈良市民連合主催安倍改憲NO！3000万署名学習決起集会が開催される

5月6日文化会館小ホールで初めての市民連合主催の学習決起集会が開かれました。参加への呼びかけや事前の準備などへの協力もあり、また、今の安倍政権への憤りやまともな政治を求め、市民連合に期待する市民350名が参加、熱気あふれる学習決起集会となりました。講師清水雅彦氏の講演は解りやすく、「安倍政権はボロボロだが改憲をあきらめない。日本会議も最後まであきらめない。楽観的になってはいけない」と引き続き署名活動と安倍改憲の危険性を伝え広げてほしいとの強いメッセージから始まり、改憲を阻止するのは、労働組合、市民、野党が大同団結で共闘で市民アクションに結集していくことが大切と方向性が示されました。学習会后、奈良公園からJR奈良駅までパレードを行いました。

講演内容；

昨年5月3日の安倍首相のメッセージは2つの問題点を持っている。「総裁」として憲法論を語っているが、まず国会議員であるにもかかわらず改憲について述べること自体憲法99条違反であり、無知な発言。

二つ目、「9条にきちんと自衛隊を明記して、自衛隊が違憲かもしれないけれど何かあれば命を守ってくれは、あまりにも無責任であり、違憲状態と言われる状態を解消したい」と安倍首相は発言しているがその発想は、まさに情緒論で問題。自衛隊を日陰者から日のあたる場所へというのは危険。自衛隊は日陰者としておくのが平和のためには重要。

安倍首相が改憲を進めようとするのは、背景の改憲勢力が、安倍首相の時でないといけない、今しかないと考えている。モリ・カケ問題等で支持率が落ちているとはいえ、まだ30%台の支持がある。諦めていない。安倍首相自身もとにかく改憲したい、歴史に名を残したいと思っている。

安倍改憲案は「9条、1項、2項を残して、自衛隊を明記」としており、この案はかなり練りに練ったもの。安倍内閣のブレーンである伊藤哲夫氏（日本政策研究センター）は「この案は護憲派も民進党の一部をも巻き込める案」としており、また公明党の理解も得やすく、維新の党とは「教育の無償化」を盛り込む約束もし、何としてでも改憲を進めようと巧妙に考えられている。内閣法制局の事務方も参画して作られており、かなり手ごわい。

加憲することにより、9条2項を死文化、空文化し、違憲である安保法制を正当化するものであり、自衛隊の公共性をさらに強化するもの。自衛隊機の夜間飛行、土地収用、軍事の際の徴用、産学軍事研究を公共性があるとしてさらに強めていくことになっていく。9条に手を加えさせないたたかいは大変重要。護憲派と呼ばれている憲法学者も世論によって揺れるし、主張も変化する。日本の裁判所も世論に左右されるところがある。憲法の解釈だけでたたかうのは限界がある。市民、立憲野党、そして労働組合が一つになって安倍政権に対峙していくことが求められている。かつて労働組合は分裂したが、今また一緒に行動している。この統一の力をさらに大きくしていこう。

九条の会が6月1日にアピールを出しました。「3000万人署名を達成し、安倍9条改憲に終止符を」という見出しです。九条の会は3000万署名を達成し、憲法九条を守る活動のとりくみの継続を訴えています。

「3000万人署名を達成し、安倍9条改憲に終止符を」とあいつぐ悪政に対する怒り、そして3000万人署名の広がり、いま安倍政権を急速に窮地に追い込んでいます。森友学園建設に絡む文書改ざん、加計学園の獣医学部新設への関与、うそにうそを重ねる答弁さらに自衛隊の「日報隠し」は、安倍首相、安倍政権に対する不信を高め、内閣支持率は支持と不支持が逆転する状況が続いているばかりか、こんな安倍首相に改憲を語る資格はない、という声が増大しています。「安倍9条改憲NO!全国市民アクション」が提起した3000万人署名への賛同者は、4月末日現在で1350万人を超え、安倍政権に対する怒りと不信の高まりにあわせて急速に人々の数をふやしています。草の根の市民の会や九条の会の中には、自分たちでたてた目標を達成するところが次々に生まれています。安倍首相がもくろんだ今通常国会への改憲原案の提出と発議は実行できる見通しがたたなくなり、改憲強行のスケジュールは大幅な後退を余儀なくされています。9条改憲の危険性、時代錯誤も明らかになっています。いま、米朝さらには南北朝鮮の間で、朝鮮半島の非核化と長く続く「休戦状態」を終結させる努力が続けられています。ジグザグはありながら、カブクではなく話し合いにより平和を実現する道が模索されています。これこそ、9条がめざす道です。ところが、いま安倍9条改憲がめざすのは、話し合いによる道とは全く逆、米軍の北朝鮮攻撃に日本が武力で加担する体制をつくることであり、武力による「解決」を加速する方向にほかなりません。このような改憲を許すわけにはいきません。しかし、安倍政権、自民党は9条改憲の強行をなおあきらめていません。今国会で改憲手続法の改正を実現することで改憲の火を継続させ、ほとぼりを冷まして、秋の臨時国会での改憲原案の提出をねらっています。安倍改憲に終止符をうつには3000万人署名の力で改憲発議を断念させ、安倍政権を退陣に追い込むしかありません。安倍政権を退陣に追い込んでこそ、改憲の策動は止まります。いま、全国津々浦々で3000万人署名のとりくみが精力的にすすまられています。しかし、安倍首相のもくろむ9条改憲に危惧や不安を持ちながら声をあげる機会をもたない人々、署名のよびかけを待っている人々が、全国に、まだまだたくさんいることも間違いありません。何としても、3000万人署名を達成しましょう。改憲発議を断念させ、9条改憲に終止符をうちましょう。

安倍改憲 NO!3000 万署名の活動の全県交流会を行います。

市民アクションが「安倍改憲 NO! 3000 万署名」を9月に提起。10月に衆議院選挙が行われたため、実質11月から5月末までの7か月間の活動で、5月末奈良九条の会ネットの集約は14428筆（岡谷会は独自集約）となりました。マスコミがほとんど取り上げず、一方的な安倍改憲のメッセージや宇予ネット、日本会議などの九条改憲への策動が行われる中、各地域・分野において様々な活動が広がりました。

今回の署名活動は北風が吹き抜け、みぞれや粉雪が舞う寒い天候ばかりでなく、市民の無関心、政治への不信、日々の生活の厳しさ、一方的な情報などにより、「心が折れそうになる」署名活動でした。しかし、学習や集会、交流を積み上げ、「再び殺し殺させない」「若者や子ども・孫たちを再び戦場に送らない」「なんとしても憲法九条を守る」という固い決意、粘り強い取組が署名数に反映し、3月・4月には「月に2000筆にもなる」動きを生み出し、最後の10日間で1500筆を積み上げました。署名の数ばかりでなく、新たな多くの人々との出会いや繋がり、友人・知人、サークルで出会った人々やご近所さんと政治の話ができる状況、郵便ポストを開けるのに心が弾むなどうれしい出来事も生まれました。

安倍政権は、憲法九条改憲をあきらめていません。9条の会奈良県ネットワークは下記の日程で交流会を行います。署名活動を通じて蓄えた力、新たに生まれた地域での共同の取組を更に発展させ、安倍改憲を阻止していく集会にします。

記

- 1、日時；6月20日（水）13時半から
- 2、場所；奈良教育会館4階大会議室
- 3、議題；①情勢と展望について

②安倍改憲NO!3000万署名への取組の交流

お忙しいとは思いますが、各地域・分野からの1～2名の参加をお願いします。

以上

